



野良猫「きく」の遺したもの

「こんなに愛された野良猫はいない」
荒川8丁目のマンションの小さな広場に
住み着いていたオス猫「きく」は推定
12歳、元は飼い猫でした。

1年半程前より体調を崩し、荒川地
域猫ボランティアの方達が自費で病院
に連れて行ったり介抱していましたが、
先月、息を引き取りました。



この3日後に亡くなりました。撫でて
いる方が朝まで一緒におりました。

「最後まで会いに来る人を待っていた」
「きく」は、抱くのに順番待ちする程
の人気のある猫でした。
野良猫は、人に対して不信感が強く、

たいがい近寄っては来ません。でも「き
く」は、人を恐れず人が好きでした。
野良猫は息を引き取る時、人目に付か
ない所に移動するのですが、弱った身体
でよろよろと動き、自分に会いに来る方
達をひたすら待っていたそうです。
「大勢の方が集まってびっくりしま
した」



「きく」が息を引き取った夜、広場に
徐々に人が集まり
20人近くになりま
した。
世話をしていた
ボランティアさん
は、こんなに多く
の方に愛されてい
たのかと、亡くなっ
て初めて気が付き
驚きました。

「きく」を抱いて一人ベンチに座り、
朝まで過ごした方、遺体に顔を埋める方、
代わる代わる抱っこする方達、それぞれ
が「きく」の死を悲しみました。

「この猫にどんなに助けられたか」

マンション住まいでは、動物を飼うこ
とができません。多くの方の共有するペッ
トとして、人と猫という枠を超えた絆を

持った「きく」はそれぞれの抱えた悩み
を吸い取り、慰めておりました。おとな
しく抱かれ、心の叫びを聞いて寄り添っ
ていました。

「きく」の温もりに安らぎをもらった
方達は、支えになった度合いが大きいほ
ど悲しみは大きかったと思います。

しかし、「きく」を囲んで想い出や悲
しみを語り合うことで 気持ち共感共
有し、ペットロス（ペットとの死別によっ
て生じる悲しみ）にならずに、感謝を持っ
て別れができたのではないのでしょうか。

「希薄な関係を濃厚にしてくれました」

野良猫「きく」の遺したものは、地域
の方達の相互の交流、コミュニティです。
思い出を語り合える人達がいることでお
互いに安心感と信頼を持ちあえ、心を開
ける関係ができました。

また、何とか助けたいと餌を探しに夫
婦でペットショップに出かけた方達のよ
うに、優しい気持ちも掘り起こしてくれ
ました。

「きく」は野良猫でいてよかったのか
もしれませんね。多くの方に安らぎと繋
がりをもたらすことができたのですから。

野良猫は、人に懐かないものだと思う
ていました。せちがない世の中ですが、
ほっこり温かい気持ちになったお話です。